

2023 年度 学校経営方針

芝浦工業大学柏中学高等学校

I 教育目標、5つの教育方針、目指す学校像

1 教育目標

本校は芝浦工業大学の併設校として設立され、「創造性の開発と個性の発揮」を創立の理念に掲げています。その点を踏まえ、生徒一人ひとりが、創造的で科学的な思考を養いながら、個性を伸ばすことを目標とします。そのために、思いやりに溢れ、自然を愛し、家庭、社会、人類に対する責任を進んで果たし、社会に貢献する人間性豊かな青年を育成することを目指します。

2 5つの教育方針

教育目標の達成のため、生徒一人ひとりを大切に、個としての人間的成長と主体的に生きる力・学ぶ力を伸ばし、かけがえのない自分というものの存在を自覚させたいと考えます。このため、以下に5つの方針を掲げます。

- (1) 創造性の教育:理工系大学の併設校として、科学的な思考を醸成することによる創造性の開発を目指すため、生徒一人ひとりを大切にし、その可能性に向き合い、サポートしていく教育を行います。
- (2) 主体性の教育:知的好奇心を育み、社会への関心を広げることで、生徒一人ひとりの主体性を育てる教育を行います。
- (3) 生きる力の教育:創意ある充実した授業で真剣に学び、厚みのある学力を身に付け、多様な進路を選択できる教育を行います。
- (4) 感性の教育:多様な価値観と出会い、多面的なものの見方を身に付け、感性・直感力を磨く教育を行うために、学校内外での活動を豊富に用意し、非認知能力の醸成に努めます。
- (5) 健康と安全の教育:生徒の心身の成長に応じた適切な教育を行うとともに、健康支援部がハブになり、生徒部や保健体育科と連携しながら生徒の健康増進や生徒の心のケアなどに積極的に取り組みます。

3 目指す学校像

本校は進学を重視する一方で、成長に応じルールやマナーについて考えることにより規範意識を育て、地域に愛される学校を目指しています。創意ある授業を通して生徒に幅広い視野と教養を身に付けるだけでなく、学校行事、生徒会・委員会活動、部活動などを通して、「創造性の開発と個性の発揮」させることができ、健康的で人間性豊かな生徒の育成を目指します。そのため、授業はもとより人生を豊かにする特色のある行事や体験を数多く織り込み、伝統や校風などを生かす仕組みも大切にします。

(1) 伝統の継承

本学校法人の創立者有元史郎は、「社会的活動の意義を体得させる特色ある教育を行い、以って社会に貢献する」とし、実学志向の教育理念を掲げて本大学の前身、東京高等工商学校を創立しました。その点を踏まえ、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」と理念を再定義して人材育成を行ってきたのが芝浦工業大学であり、その併設校として設立されたのが本校です。初代校長の佐々木勘次郎は「高校時代にこそ創造的で科学的な精神を養わなければならない」と考え、「創造性の開発と個性の発揮」を創立の理念とし、それは開校以来、連綿と受け継がれています。そして、現代社会において廃れるどころか、より輝きを増しているといえるでしょう。それだけに、理念をより深化させていかねばならないと考えます。

(2) 自己実現への支援

本校の教育理念は、生徒の自己実現を究極の狙いとしています。したがって、希望の進路に進むことだけが目的であってはなりません。どんな人間になりたいのか、どう生きたいのか、そしてどのように社会貢献したいのか等を生徒に積極的に問いかけ、生徒の人生観や世界観を磨くことを大切にします。そのために生徒自らが進んで学ぶことができる教育環境を整備し、様々な教育活動の中で、自ら問いを立て、社会に貢献できるような責任と自覚の醸成を図ります。また、長期的総合的な進路指導計画に基づき、生徒がグローバルな視点で進路を拓くことができる学校を目指します。

4 自己実現を達成するための観点

(1) カリキュラムの基本構成

① 中学校から（中高6か年）：

中高6か年を2年ごとに分け、「ホップ」・「ステップ」・「ジャンプ」の3段階で進路実現を目指します。

【ホップ期】 中学1・2年にあたり、国数英を中心に基礎学力を養成し、学習習慣と意欲を身に付け、学力の土台を根付かせます。教科外として、環境理科教育としてのグリーンスクール、文化祭や運動会、博物館見学、語学研修等があります。

【ステップ期】 中学3年・高校1年にあたり、自分の「夢」を目標という具体的な形にします。様々な学校行事や生徒活動において、「サイエンス、グローバル」の教育テーマの仕上げを行う時期にも充てます。また高校1年生末には、国数英でバランスのとれた学力をつけ、文系・理系という自らの進路を選択します。教科外として、中学3か年のまとめとして、中学3年生における海外研修があります。

【ジャンプ期】 高校2・3年にあたり、自分の目標の通過点である大学受験に向け、特に高校3年生において、受験科目に合わせた学習を展開します。教科外として、高2オーストラリア研修等があります。

②高等学校から（高校3か年）：

併設中学校からの連絡進学生（中入生）と高校からの入学生（高入生）は、英数国理の授業進度が異なるため1年次のジェネラルラーニング（GL）クラスでは中高別クラス編成とし、高入生は月から土まで毎朝25分間のモーニングレッスンで英・数・国・化をより多く学習し進度を合わせます。一方、選抜者で構成されるグローバル・サイエンス（GS）クラスは中入生・高入生混合編成とし、高入生には数学のみ補習を実施します。2年次に文系・理系に分かれるところでGLクラスでは中入生と高入生を混ぜ、数学の一部の科目で習熟度別の授業をすることで、きめ細かい学習指導を行い、3年次には、各個人の進路に合わせたきめ細かい選択コースを多数展開し、進路目標の実現を図ります。

(2)進学コースの設定と取組

<高等学校>

- ① 2015年度より高校1年に、中学からの連絡進学生の希望者と高校入学生の希望者から成績優秀者で構成されたGSクラス1クラスと従来のカリキュラムをより洗練させたGLクラス6~7クラスの2コースを設置しています。
- ②GSクラスは、東大などの難関国立大での研究や学問をし、日本や世界に貢献する人材を育成することを目的に、能動的な学修などを取り入れながら高度な授業内容を追求します。2時間の特設時間において、これまでのシバウラサイエンスクラスの実績をもとに、自然科学のテーマの他に社会科学・人文科学の範囲を含めて、探究的な課題研究を行うとともに、英語で論理的に書く力を育てます。GLクラスは、補習の強化などにより、主要5教科の苦手をつくらず、国公立大合格に対応できる学力の育成を目指します。

<中学校>

2016年度より、中学校でもGSクラスを設置しています。入試段階における成績上位者を選抜のうえ1クラス編成し、その後は習熟度別で一部入れ替えながら高校のグローバル・サイエンスクラスの準備段階として位置づけていましたが、2024年度から発展的に解消し、より充実した授業を全クラスで展開していきます。

(3)主体的に「学び続ける生徒」を育てる特色ある教育活動 ～グローバルとサイエンス～

能動的な学修を実践することにより、自ら「学び続ける生徒」を育て、グローバル、サイエンスという二つの分野による特色ある教育を充実させます。中学校では、一人一台のタブレットPCを持ち、さまざまなプレゼンテーションや「全国中学高校Webコンテスト」への参加など、主体的に学ぶ生徒を育てます。高校でもこうした機会を多く設定します。また、PCを用いたWeb学習システムを導入し、主体的分析的に学習する生徒を育てます。

グローバルの核となる英語教育では、4技能を重視したコミュニケーション重視の英語教育を行います。また中学3年では、生徒全員によるニュージーランドへの研修旅行を計画し、英語を使った海外体験を行います。さらに中3～高2の希望者による英国、オーストラリア、アメリカ、カナダの短期研修の他、海外の大学へ進学を志す生徒への支援などを行います。

サイエンス教育としては、中学校では、南会津に所有する「芝浦創造の森」を中心として活動するグリーンスクールでの自然環境学習から、研修先での環境学習体験などで、地球環境についての関心や態度を育てます。また、高校ではスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の活動を中心に、GSクラス、GLクラス（課外）における特別な理数教育を行い、理系に強い生徒を育てます。また、理系女子を育てる試みや高大接続教育などを芝浦工業大学と連携して行います。

Ⅱ 中期目標と方策

1 授業方法、学習評価の研究と新教育課程の作成

2021年度入試から実施された「大学入学共通テスト」や英語などの入試改革において、4技能型の民間の資格・検定試験を活用する方針が打ち出されている現状を踏まえ、現行の教科・科目の枠を越えた「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育てるために、これまでの時間割やカリキュラム、授業内容を見直し、難関大学などをはじめとする進路実現の方策を進展させます。

- (1) 各教科会を統括する教科主任会議と進路部が連携して、能動的な学修をはじめとする授業方法を研究し、生徒がより深い理解力を身に付けるような授業実践を増やします。
- (2) 生徒の自学自習、主体的で協働的な取組が学力定着・向上に結実するように「SK学習ルーブリック」の有効な活用方法、様々な「勉強の仕掛け」や「学力を伸ばす仕組み」を各学年会、各教科会で検討し、実施します。
- (3) 学校行事を精査し学習効果がより高まる年間日程表を作成し、計画的な学習進路指導の強化に努めます。
- (4) GSクラス、GLクラス各々に適した授業を行い、確実な学力の定着を目指します。
- (5) 2022年度より年次進行で実施される高校の新学習指導要領に向け、本校の教育目標に合った新たな教育課程を作成します。

2 進学実績の向上

難関・有力大学への合格を確実にするため、以下の受験力向上システムを整備します。また、個々の進路に合わせたカリキュラム選択をより充実させるとともに、戦略的なクラス編成を工夫するなど、各学年会が進路部の支援を得ながら生徒個々の受験力について分析し、教科会と連携して受験力の向上を図ります。

- (1) 自立的な学習者を養成するシステムを学校全体で共有します。共通テストの合計得点率が受験者平均で 75%となる受験力を獲得できるシステムを整備します。教科得点率は、国語・数学・英語の主要教科で 80%、理科・社会の選択科目は 70%台後半を目標とします。東大現役 3 名、東大レベル（京大、国立医学部、東工大、一橋）5 名、早慶上智現役 60 名、早慶上理 GMARCH 国公立いずれか 1 校合格実数率 60%、理科大 70 名以上、千葉大+筑波大現役 30 名。
- (2) キャリア開発部を中心に進学指導ノウハウを積極的に、教員をはじめ生徒・保護者にも発信し、学校全体での共有を図ります。
- (3) 学力向上策の具体化に力を入れ、特に能動的な学修につながる研究を行います。学習スキルの指導、試験に対する事前事後指導、Web によるビデオ教材の導入を通じ、反転学習など、生徒自らが自己分析を行い、目標に向かって学ぶ仕組みを作ります。
- (4) 能動的な学修や反転学習、英語 4 技能の習得など、教育改革の動向に合わせ、また高校の学習指導要領の改訂による大学入試改革（2025 年度入試）に対応するように、教員研修に努めます。
- (5) 学力到達のチェックは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」3 段階の節目において詳細に行います。また、内部評価では進路部、学年担任団が連携して模試などの成績分析を行い、学力向上の取り組みを総括します。

3 グローバル教育の展開

情報技術の急速な進歩による世界の一体化のなかで、異文化理解をしながら活躍できる人材の育成を目指します。

- (1) 英語教育において「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を育てる中で、特に「聞く」「話す」機会を多くするようなカリキュラムの構築を目指します。2022 年度から、国際通用性のあるケンブリッジ英検を導入したのも、4 技能の育成に欠かせないと考えたからに他なりません。今後は、その効果の検証も進めながら、生徒にとってより良い英語教育の方向性を議論していきます。
- (2) 英語の運用能力を高める海外での体験を増やします。中学においては、中 3 生徒全員を対象としたニュージーランドへの短期留学、高校においては、希望者によるイギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカへの短期留学を企画します。また、芝浦

工業大学への推薦生を対象とし、カナダ、ニュージーランドの語学研修、タイでの国際 PBL（問題解決学習）活動への参加を展開します。

- (3) イギリス、オーストラリアなどの大学のアドミッション担当者と直接連携し、校内で説明会を開いて海外大学への進学も視野に入れた指導体制を充実させます。

4 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組

本校は、2004～2008 年度〔第Ⅰ期〕、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」の指定校となり、その後、再度 2018～2022 年度〔第Ⅱ期〕（5 年間）の指定を受けることができました。また、2023 年度は第Ⅱ期の経過措置校としてⅢ期の申請に向けた準備を進めています。全国に約 220 校ある SSH 指定校のうち、理工系大学の併設校で指定を受けているのは本校だけです。その特徴を生かし、芝浦工業大学とのより緊密な連携を図りながら、SSH に求められる科学振興人材の育成における独自のポジションを築くことができるような校内体制の充実を図ります。

- (1) 高校 1、2 年に学校設定教科としておかれている「SSC」において、理数系だけでなく、社会科学・人文科学系のテーマをも含む、生徒が主体的に取り組む探究型教育の実践を全校体制で実施できるような仕組み作りに注力します。
- (2) 科学部を中心に、先端研究者を目指す生徒を育成し、積極的に発表の機会を得て、全国レベルの実績をさらに進められるような体制の強化を図ります。
- (3) 芝浦工業大学との連携をさらに充実させ、理系女子を育成する企画を展開します。
- (4) 中高一貫理数探究プログラムの開発を目指します。
- (5) SSH 活動において、ルーブリックを用いた評価法の研究を行います。
- (6) スーパーグローバル大学 (SGU) である芝浦工業大学の海外協定校との高大 4 校連携相互交流プログラムを展開し、グローバルに活躍できる理数系人材を育成します。

5 中高大接続教育の充実

法人本部にある「中高大連携推進検討委員会」などと連携して、芝浦工業大学との中高大接続・連携教育の充実を図ります。

- (1) 芝浦工業大学への関心を高めるよう、6～7 月に行なわれる全 16 学科説明会に、高 1、高 2、高 3 希望者を参加させ、各学科の特徴や研究内容への興味関心を喚起し、高 2・高 3 での大宮、芝浦、豊洲キャンパス見学参加につなげます。また、芝浦工業大学卒業生 OB・OG 講演会などを通じて、芝浦工業大学への進学意欲を高めます。
- (2) 男子生徒とはまた違った進路選択を行う女子生徒向けに、ロールモデルを示しながら、より深い進路研究の知識と方法を得られる講演会や公開講座を開催します。
- (3) SSH の課題研究、科学部の活動、Web コンテストの探究活動などにおいて、芝浦工

業大学の教員、院生・学生の指導やアドバイスを積極的に受けられる態勢を構築します。

6 広報活動の充実と入試改善

教育活動の内容を活発に広報するシステムを構築し、さらに中学においては、新たな入試内容や方法を工夫・改善します。

- (1) 学校案内やホームページを常にリニューアルし、本校の教育内容、進学実績を分かりやすく明示します。
- (2) SSH の活動を核として探究型の実践が増える中で、それらの広報を通して、中学入試において広範に優秀な受験層の獲得を目指します。
- (3) 毎年度、入試日程、入試回数、出題傾向を検討し、塾・保護者に対し迅速に公表します。

7 防災体制の充実

学校法人災害危機管理規程（2012年4月1日施行）に基づき、防災体制の充実を図ります。

- (1) 「柏校舎災害危機管理基本計画書」及び「生徒用防災マニュアル」に基づき、防災訓練を適切に実施します。
- (2) 防災用品の充実と使用時の効率化を考え、管理体制の向上を図ります。
- (3) 基本計画書に基づき施設設備の要改善箇所を提言し改修します。

8 周年記念事業の実施・計画

柏高等学校創立40周年記念講演会、式典、祝賀会は、記念事業委員会を2015年度以降、毎年2回開催し、事業内容の検討・審議を重ね2019年度に無事終了しました。今後は2029年度の創立50年の記念事業として新校舎の建設を進められることになりました。校舎建設は法人主導で行われますが、それに伴う各種事業の実施に向けて財源を確保すべく、PTAに積み立てをお願いするとともに、同窓会にも協力を依頼します。

III 2023年度教育活動の重点目標

1 教育課程内の教育活動の充実

- (1) 3観点の評価と評定の算出方法の研究を進めます。定期試験の点数のみによらない、生徒の多様な学びを評価する仕組みを研究し、実践を進めます。
- (2) (1)の研究、実践を通して定期考査のあり方を提案します。
- (3) 本校の教育実践を広く広めるとともに、教員の授業研究の促進を目指し、公

開研究授業を6月（校内）と11月（校外）の年2回実施します。

2 学習の充実および多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択

- (1) 進路指導・キャリア教育を通じて、「自律して学び続ける生徒、これからの社会で生きていくためのスキル、人間力を身につけた生徒」を育成します。
- (2) 大学入学共通テストにおいて5教科7科目受験の国公立希望者130名を目指します。
- (3) 本校の中位層が千葉大学で合格できるよう共通テストで平均が千葉大学のボーダーライン以上の得点率を目指します。
- (4) 英語関連講座などを通じて英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。
- (5) 中高各学年に応じたキャリア教育、面談などを推進し、進路・職業意識の向上、学習意欲の向上に繋がります。
- (6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。
- (7) 総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、多様な入試方式への対応を促します。

3 生徒活動及び生徒指導の推進

- (1) 新柏駅や電車、バス乗車時のマナー向上を目指して、生徒の自治活動を支援するとともに対策を実行します。
- (2) 情報端末の使用規程に沿って、正しく行動選択ができるよう生徒の自治活動を支援します。
- (3) 文化祭をはじめとする学校行事や委員会活動および生徒会活動において、生徒の主体的な活動を引き出し支援します。
- (4) 地域に貢献する活動を立案し実践します。

4 健康な学校生活の推進

- (1) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧奨します。養護教諭による保健指導、AED・心肺蘇生法・エピペンの講習会を実施します。
- (2) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。教員向けの研修会や事例検討会を実施します。
- (3) いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見と再発防止に取り組みます。中学生の「心の教育」を推進し、豊かな心を育てる学校を目指します。

5 ICT を利活用した教育の推進及び校務の DX 化

- (1) Google Classroom、Google フォーム、Google ドライブを始めとした Google Workspace やスクールタクト、canva 等の活用の研究を進めます。
- (2) Google Workspace などを活用することで校務の DX 化をより推進します。
- (3) ICT を主体的に活用できる生徒を育てます。授業時以外でも ICT 機器を適切に利用することを目指します。

6 読書習慣の形成と ICT 教育環境の推進

- (1) 生徒の読書習慣を把握し、その現状を把握します。図書室及び図書委員会の取り組みを生徒、教員と情報共有します。
- (2) ICT 化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、より効果的な授業環境の整備を図ります。

7 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進

- (1) 防災、危機管理の体制を再検討し、災害時の避難連絡体制を構築します。また、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底を図ります。
- (2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。
- (3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。

8 広報活動の充実・募集形態の研究

- (1) 学校説明会においてアドミッションポリシーを明確に示し、入試形態を簡潔に説明していきます。また、対面式説明会やオンライン説明会、見学会など受験生のニーズに合った様々な説明会を企画し実施していきます。
- (2) 学校概要や教育の特色を簡潔に盛り込んだ学校案内（中高版・高校版）とそのデジタル版を作成し学校外で行われる相談会等で活用します。
- (3) 「建学の精神」、身に着けてほしい3要素「CSC」、また、教育の3本柱である「探究活動」「サイエンス教育」「グローバル教育」をはじめ「ICT教育」「キャリア教育」などの活動報告をわかりやすく具体的に外部へPRしていきます。
- (4) ホームページやSNSを活用して、本校の教育の特色や中学・高校入試の情報などを発信し、受験生獲得に向けた広報活動に生かしていくとともに、本校のブランドを外部に広報します。

9 事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の深化

千葉県内における私立進学校としての地位確立、強化につながる本校の取組に事務の観点で貢献します。

- (1) 理事会による校舎・施設等の将来計画を注視しながら、一部老朽化の進む施

- 設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する的確な判断を下します。
- (2) 学年主任会・教科主任会・総務部等との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。
 - (3) ICT教育の基盤として導入を始めた教室の単焦点プロジェクタは、初期に導入した機体が5年を迎え不具合が増えてきたことから、授業運営に極力支障が無い様に代替機等を確保しつつ、今後の機器更新について検討を行います。またDX推進部や情報科と連携して情報教室のリプレイスを進めます。
 - (4) 経過措置中のスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めつつ、同時に第3期の申請に向けた取り組みも行います。
 - (5) 生徒の探究活動や本校のSSCⅢでおこなっている先取り授業の後継プログラムの開発、併設校推薦、働き方改革に関する諸取り組みについて事務室も芝浦工業大学との結節点となり、取組の促進などに寄与する。

10 学び続ける人材を育成する教育基盤の確立

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0の時代」、先行き不透明・予測困難な「VUCA」の時代で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成に努めます。

- (1) 新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領や大学入学者選抜改革に関する理解を深めた上、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、文理横断・文理融合教育の推進、キャリア教育の推進に努めます。
- (2) 教師の採用・研修の一体的改革を推進することで教育基盤の強化を図ります。
- (3) 生徒の情報活用能力を伸ばしデジタル人材の育成に努めます。そのための教師の指導力向上を図ります。

11 SSH 研究開発に基づく教育活動の充実

第Ⅱ期の研究開発の目的である「創造性豊かに個性を発揮し、将来社会で活躍する科学技術人材を効果的に育成する」ための取組の成果と課題を抽出し、第Ⅲ期の研究開発実施計画を作成します。

- (1) GS/SS探究授業、World Day、総合的な探究の時間における第Ⅱ期の取組を振り返り、正課内外の探究活動（課題研究）を軸とする重層的かつ効率的な教育プログラムの開発と実践を行います。
- (2) 芝浦工業大学の教員と連携しながら将来の理工系人材に資する資質・能力の客観的な評価法の確立と課題研究用 Project Rubric 運用の深化に取り組みます。

- (3) ベトナム FPT 大学・高校， 芝浦工業大学と共同開発・実践を重ねてきたプログラムの拡充と芝浦工業大学との連携を中心とする高大連携研究支援の推進を図ります。
- (4) 校内外において、探究活動（課題研究） 実践に関する普及と教職員研修ネットワークの構築を目指します。

12 世界で活躍できるグローバル人材の育成

- (1) Well Being を追求したグローバル教育を目指します。海外の経験・文化を通して、Student Agency 及び Grit（やり抜く力）：Guts（闘志）、Resilience（粘り強さ）、Initiative（自発）、Tenacity（執念） を養います。
- (2) グローバル基準のオーセンティックな教育を実践します。教科書、4技能試験など、世界で通用するコミュニケーション能力を養います。
- (3) 持続可能な繋がる教育を目指します。AI時代に、生き抜く力を育てます。多様性を認め、クリティカル・シンキングをツールとしたリテラシーを身に着け、異文化交流に必要な能力を身に着けます。

以上